

2018年9月24日掲載 輸送新聞

保冷輸送スタートへ

食品・医薬品向けに

第一貨物 既存顧客の深耕を

第一貨物（武藤幸規社長）はこのほど、保冷輸送サービスを開始すると発表した。

保冷ボックスと蓄冷材を利用し、一般貨物車両に積み合わせて輸

送する。保冷ボックスは商品一つに対応する小型ボックスと、ロット輸送に対応する1100サイズのパレット用ボックスの2種類を用意。パレット用

ボックスでは商品の積み合わせも可能となるため、伝票作成時間や荷札貼付など、作業時間の短縮も図られるとしている。

医薬品の適正流通基準（2～8度）、冷凍（マイナス20～0度）、冷蔵（0～10度）の3温度帯に対応し、荷主の需要に応じて、輸送中の温度のトレーサ情報

も提供する。商品預かり後、翌々日の配達まで対応できる。

保冷輸送は自社配送エリア内で行い、料金は個別対応となる。

同社では、テスト運用を経て本格展開に至ったとしており、当面は食品関係や医薬品関係の既存顧客の深耕ツールとして展開していく考え。